
西南薫とマスター・ヴェル～消えたモコの行方～

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

西南薫とマスター・ヴェル〜消えたモコの行方〜

【Nコード】

N4909Y

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

モコが突然、失踪。その謎をモコチームの二人が調べ始める。

第一話 不可思議誘拐

魔界は朝になっていた。

真っ暗ではないのは、灯がともっているからである。

「モコ様を起こしに行かなくては・・・」

西南薫は、小さいドアを開けた。

「モコ様、起きる時間ですよ。」

西南薫は更に覗いてみた。

「モコ様がない。マスター・ヴェルさんに知らせなきゃ。」

サンバッタとマスター・ヴェルとタチイヌイヌノフグリと炎智伝えんちでんは、
楽しそうに紅茶を飲んでいた。

サンバッタは、小さなカップで飲んでいる。

「みんなと同じ体付きだったら、たくさんのめたのになあ。」

「ハハハハハハ。確かにそうだね。」

「大変です。」

「西南薫、モコ様を起こしに行ってたんじゃない?」

「それがいないのです。部屋のあちらこちらを調べてもいなかったです。」

「え・・・」

次回に続く

この物語は、これを読んでくれる皆様方も推理に参加できるシステムになっております。

では、今回の部屋の特徴を解説します。

「モコの部屋には窓がなく、一方しか入ることしかできないドアが存在している。」

「隠し部屋、隠し扉の類の存在はなく、モコはそこから連れ攫われた。」

「魔界は、真つ暗闇で朝になっても少し闇が晴れる程度。外を歩くには蝋燭が6本は必要。」

この三つからまずは推理してください。

第一話 不可思議誘拐（後書き）

次回 第二話誘拐の真相と想定外。お楽しみに
新キャラ

炎智伝、種族朱雀、性別男、能力炎で音楽を奏でる程度の能力。
朱雀指揮者」という別名を持つ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4909y/>

西南薫とマスター・ヴェル～消えたモコの行方～

2011年11月17日19時21分発行